

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵜沼石上 1-1-1

江ノ電第2ビル7F

Tel: 0466-26-3028 Fax: 0466-27-5091

E-mail: jdgshonan.official@gmail.com

http://jdg-shonan.ciao.jp/

ご挨拶

湘南日独協会 副会長 勝亦正安



勝亦正安氏

伊藤前副会長の後を継ぎ、本年4月28日の定時総会で副会長に就任しました勝亦と申します。微力ながら、湘南日独協会の為努めさせていただきます。

昨年は当協会設立20周年という節目の年であり、2月ブルーノ・タウト設計の熱海旧日向邸見学を皮切りに、アムゼルの記念コンサート、記念講演会、記念シンポジウム、ドイツワイン試飲会、ドイツ料理講習会、オクトーバーフェスト等々年間を通じて多種多様な行事が開催されました。皆様のご協力を得てそれぞれが大好評でした。本年も、毎週土曜日にはドイツ語講座、様々な分野の専門家を招いて開催される講演会、ドイツ人を交えたおしゃべりの会談室SAS、4月に上映された「バルトの楽園」の映画鑑賞会等々を催し、今後は、7月初にドイツから来日の志賀トニオ氏によるレクチャーコンサート、10月には恒例の協会最大のイベント湘南オクトーバーフェスト、そして年末には望年会が開催されます。また、現在は休止中ですが、ドイツ語で唄う会SWZの復活も検討中です。さらに、設立以来提携契約のあるドイツ・ワイマール日独協会との親善を深めつつ、松野会長の下、日独友好一層の推進と交流を図り、皆様のご意見、ご希望を取り入れながら、且つ湘南の特性を生かしながら、今後とも活発な活動を展開して参りたいと存じます。

最近のことですが、西鎌倉山地区の自治会から、毎月同自治会が開催する文化会への協力依頼がありました。具体化はこれからですが、協会の知名度を高めるためにも、こうした他団体からの協力要請にも積極的に応じて行きたいと思えます。

他方で、当協会が抱える問題の一つに、会員の高齢化があります。この問題は、全国にある40有余の日独協会の多くに共通する悩みでもあります。解決には若手の新規会員の獲得しかありません。どこまでできるか分かりませんが、若い人も喜んで入会して貰えるような魅力ある協会の作りに努力致します。

日本をめぐる世界の情勢は、日米、日中、日ロ、日韓等々問題山積です。幸い、現在日独間に大きな懸案事項は見当たりませんが、人口の高齢化、核廃棄物処理、プラスチックゴミ処理、気候変動、更には外国人労働者の流入等、両国に共通する課題は少なくありません。この意味で、ドイツの動きには今後共注視し、協会としても情報収集に努めたいと思います。外国人労働者と異文化流入への対処については、間違いなくドイツが先輩であり、その経験は日本の参考になりますね。

ご挨拶というよりむしろ、日頃の思いを勝手に述べさせて頂きました。最後に、会員皆様のご健康を願いつつ、ご支援とご協力を改めてお願い申し上げます。

4月例会の映画会「バルトの楽園（がくえん）」

に関して、会員中島敏氏からのご寄稿です。映画の背景の一つとして非常に興味ある内容であるとともに当時の収容所でのドイツ人の生活や日本人との交流などを記した歴史ある文書の翻訳の苦労を伺うことが出来ます。なおドイツ語原文は紙面の都合で一部省略させて頂きました。

また、冒頭の解説文中の下線部分にあります、「発刊の辞」には新聞発行の喜びと同時に俘虜という環境の悲哀も感じさせる一文があります。

「Tokushima-Anzeiger : 徳島新報」

会員 中島 敏



中島敏氏

トクシマ・アンツアイガー。それは何だ？ 第一次世界大戦中に青島で捕虜となったドイツ兵俘虜によって徳島俘虜収容所内で自発的に発行されていた新聞である。『トクシマ・アンツアイガー』は、1915年4月5日（月）が第1号の発刊日となっている。これ以降日曜日ごとに発行された週刊新聞である。ただし、第3巻第9号からは隔週刊になっている。

この新聞のうち第1巻第1号から1916年9月17日（日）の第3巻17号まで、全体で67号分のコピーが残っている。第3巻18号以降の発行が実際にあったのか、それとも何らかの事情で廃刊となったのか、現段階では不明である。俘虜たちが新聞発行をするに至った事情について、第3巻18号以降の発行が実際にあったのか、それとも何らかの事情で廃刊となったのか、現段階では不明である。俘虜たちが新聞発行をするに至った事情について、第1号の冒頭に「発刊の辞」とでも言うべき文章がある。「以前から久しくあった要望に応えるため、われわれは今日この新聞を公共の場に提供し、もって長年にわたって花開き、成長し、繁栄することを望みたい。新刊の新聞は、たいいていこのような言葉とともに世の中へと出される。本日世に出たわが『トクシマ・アンツアイガー』は、このような美しい発刊の辞を、単に言わずにすむだけでなく、放棄しなければならない。というのも、それは全く不適切な言葉だからである。せいぜい「以前から久しくあった要望」は正しいとしよう。しかし、当俘虜収容所を「公共の場」と言うのは意味をなさない。また長年にわたって続くことをこの新聞に対して望みはしない。われわれが、この収容所の門を出て、愛しいドイツの故郷に戻ることを望む。」

原文は古いドイツ文字の筆記体で書かれている。所謂ガリ版刷りになっている。2001年頃、鳴門ドイツ館が徳島新報の解説を全国に呼びかけた。私がメンバーになっている横浜ドイツ研究会がこれに呼応させて頂いて、爾後約2年間、原文を現在ドイツ語印刷体に直し日本語訳をつける作業で悪戦苦闘を楽しんだ。その一部1916年6月4日付けの徳島新報に出た「収容所見張り台より」を紹介しておきたい。

(次頁へ続く)

収容所見張り台より

5月が過ぎた。大いに風が吹き、雨が降ったが、それでもなお、かなり涼しく、我々は気分の良い状態を保っていた。旗竿には皆、丸い口付きの鯉のぼりがあちこち重たげに泳いで、それぞれその怪魚ぶりを競っていた。外では、小麦や大麦が実りを迎え、学校の噴水あたりでは既に打穀されている。仮に作男の期待を十分に満たすものではないとしても、収容所の菜園も整備されつつある。無数のひよこの一団が食欲をそそるローストとなるべく、すっかり成長を遂げている。何人かの愛犬家が再び新しい愛犬を見せにやってくる。彼等は既に夜毎のワンちゃんコンサートで聞こえる声を出そうとしている。カブト(犬)は監視の合図に相変わらず最上の鳴き声で伴奏をつけている。彼は収容所の方が、もともと彼が居るべき中学校より居心地が良いと感じている。歩哨たちは、夜、彼と銃剣戦術練習を開催しているようである。カブトは2度続け様に激しい突きを受けた。広場では競走路が清掃され、ぐるりと階段状の観覧席が囲んでいる。まもなくあそこで自転車競技が行なわれるのであろう。

我々のゲーム、バレーボールやテニスの見物人がどんどん増えている。可愛らしい少年が興奮して一緒にやりたがる。このチビッコたちは熱心に大きなバレーボールの後を追ってきて、それを打とうとするのだが、周りの者たちに笑われ、ゲームでのようには、そう簡単に大きなボールを捕らえられるものではないということを思い知らされるのだ。球技のほかには、さらに熱心に体操が行なわれている。それで、肉体的な運動に関しては、我々は不足しているということは全くない。精神的な糧については、新しく整備された図書室が大きな満足を与えてくれている。書架を見渡せば、図書館は本当に立派に見える。収容所の施設はますます拡充されているが、更に、未実施の建設計画は急を要する。というのは、やがてすべての建設場所の配分が決まるからである。――

シュレトア牧師が水曜日(5月31日)に収容所で礼拝を行なった。牧師はこの収容所に強い関心を示しており、いつでもできる限り力になるつもりでいてくれている。

昇天祭の日、中津峰の北斜面にある観音堂まで日帰りの遠足をした。既に朝の6時半、太陽の輝きが最も美しいときに出発した。一本のまっすぐの街道が、ところどころに大麦畑と田んぼのあるだらだらした平地を通して那賀川まで通じていた。農家の人達が大麦を刈ったり、田んぼで苗代から稲の苗を出して田植えをする準備をしたりしていた。那賀川のほとりの堂々とした杉や松の森の中に、数多くのお墓に囲まれるようにして常楽寺がある。封建・武家時代には戦場となった処で、このお寺の別院の一つにおいて、或る大名が殺害されたと言われている。このお寺から道は先ず小さな丘陵脈に沿って、それから川岸に竹藪が生えている乾ききった河川路に通じ、次いで高い中津峰山脈の麓へ真っ直ぐ谷を横切っている。深く切り込まれた谷からは小さな川が音を立てて流れ出て、この落差を幾つかの米用臼の水車が利用している。道は、かなりの勾配を以ってお寺の方へ曲がって上がって行くが、殆どずっと陰になっている。この間ずっと向こう側の道の暗い色をたたえる樅林と灰色の岩が向かい合った断崖を見渡すことができる。我々は、多くの巡礼者達を追い越した。巡礼者達は、大半は女の人だったが、道の途中で、観音様のお像に出くわすたびにお供えをしていた。切り立った石の階段が、2ヶ所の踊り場から上の方の寺に直接続いている。その寺は堂々とした針葉樹によって陰になった露台の一角に建っている。ほとんどの人の関心は、更に上にある88ミリ・カノン砲に向けられる。それは、日清戦争で日本軍が押収したものだ。更にまた、特にお伝えしておきたいことは、杉の高木に彫り付けられた観音像である。このお像は、約1メートルの大きさだが、彫り付けられた樹木は更に生長し続けている。山の頂では、十分な時間があって有益な休息をとることができた。3時間半も行進が続いた後だったので、近くの滝にちょっと寄り道できたことは、幸運としか言いようがない。

滝水が勢いよく、泡を立てて、岸壁から飛び出し、約20メートルの深さの、暗い、緑色の滝壺に飛び込み、更に勢いよく岩肌の上を谷へと下って行く。午後、空が曇ってきた。陽焼けで痛みつけられることなく家路につくことができ、全員かなり元気で収容所に戻った。ハイキングに参加して少しばかりほっとした。本当は平らな道のりをかなりの時間をかけて往復することには気が進まなかった。けれども、あとになって見れば、この遠足は楽しい思い出になるだろう。

(横浜ドイツ研究会訳)

以下は原本の冒頭からの一部です――

Von der Lagerwarte

Der Mai ist vorbei. Viel Wind, etwas Regen, aber doch hübsch kühl hat er sich in unserer Gunst erhalten. An allen Flaggenmasten schwingen rundmäulige Zeugkarpfen schwerfällig hin und her, jeder sucht den andern durch die Größe seiner Fischungetüme zu 4 5 übertrumpfen. Draußen reifen Weizen und Gersten heran, beim Schulbrunnen wird schon gedroschen. Auch die Gartenanlagen im Lager entwickeln sich, wenn sie auch manchmal die Erwartungen des Gärtners nicht erfüllen. Die zahllosen Kükenscharen wachsen sich zu appetitlichen Braten aus. Einige Hundeliebhaber bringen wieder neue Pfleglinge zum Vorschein. Sie versuchen es bereits sich in den nächtlichen Hundekonzerten eine vernehmliche Stimme zu verschaffen. Kabuto begleitet die Signale der Wache immer noch mit dem schönsten Geheul, er fühlt sich im Lager heimischer als in der Mittelschule, wo er doch hingehört. Die Posten scheinen nachts mit ihm Bajonettübungen zu veranstalten, er hat kurz hintereinander zwei energische Stiche erhalten. Auf dem Spielplatz ist die Rennbahn gereinigt, ringsum stehen Tribünen, in nächster Zeit werden dort wohl Radrennen stattfinden. Unsere Spiele, Faustball und Schlagball, finden immer mehr Zuschauer. Die liebe Jugend fühlt sich mitunter zum Mitspielen angeregt. Eifrig laufen die kleinen Knirpse hinter dem großen Faustball her und versuchen ihn zu schlagen, müssen aber unter dem Gelächter der Umstehenden erfahren, daß die große Kugel nicht so leicht zu hantieren ist, wie es beim Spiel scheint. Neben dem Spielen wird das Turnen noch emsig betrieben, an körperlicher Bewegung fehlt es uns also durchaus nicht. An geistiger Nahrung bietet die neueingerichtete Bibliothek eine große Fülle, in den übersichtlichen Regalen nimmt sie sich recht stattlich aus. Die Villenkolonie wird wieder vergrößert, wer noch die Absicht hat zu bauen, muß sich beeilen, denn bald sind alle Bauplätze vergeben. — Herr Pfarrer Schroeter hat am Mittwoch (31. 5.) Gottesdienst im Lager abgehalten, er zeigt reges Interesse fürs Lager und ist stets zu allen möglichen Diensten bereit. Bd.III Nr. 10 6 7 An Himmelfahrt gabs eine Tagestour zu dem Kwanon Tempel ein Nordabhang des Nakatsuminne. Es ging bereits um 6 1/2 Uhr morgens bei schönstem Sonnenschein los. Bis zum Nakafluß führte eine leidliche Landstraße teilweise alsdann zwischen Gersten- und Reisfeldern durch eine reizlose Ebene. Die Bauern waren dabei Gerste zu schneiden oder die Reisfelder für das Aussetzen der Reispflanzchen vorzubereiten. Am Nakafluß liegt, in einem Hain stattlicher Cedern- und Kiefernabäume, umgeben von zahlreichen Grabstätten, der Tempel Jorokushi, es ist ein Kampfplatz aus der Feudal- oder Ritterzeit, in einem der Seitengebäude des Tempel soll Ein Daimio einst ermordet worden sein. (以下省略)

5月例会

『講演会「パイプオルガン その歴史と構造」 を聴講して』

会員 杉山 麻衣子



講師の説明を受ける右から2人目が杉山麻衣子さん

パイプオルガンについては、興味があったものの詳しく知らなかったもので、造詣を深める良いチャンスだと思い、当講演会を聴講しました。講師の先生は、ドイツでマイスターを取得され、国内屈指のパイプオルガン工房をかまえる松崎譲二さん。会場には、長さや太さが様々なパイプや、自作されたという持ち運べる小型のオルガンが置かれていました。

まず、パイプオルガンの定義とは何か、という話から始まりました。その定義は3つ、発音体がパイプであること、ふいごの風で音を鳴らすこと、鍵盤で演奏すること。それすら正確に理解していなかった私は、講演の序盤からとても関心を寄せました。

次に、構造に関する話では、鍵盤をたたくとてこの原理が働き、弁の開閉によって風がパイプに通って音が出るという仕組みの解説がありました。さらに、一つのパイプに対して一音のみが出る。音色はパイプの素材や形状で変化を付けているが、音の強弱は付けられない、といった話も。構造の説明は難しかったですが、初めて知り驚く内容ばかりです。また、サンプルとして用意されたパイプを口で吹くのを聞いたところ、その音は脳に直接届くように非常に響くと感じました。

歴史については、紀元前246年に、水圧を利用して音を鳴らす水オルガンが起源として歴史に残っているとのこと。そして12,13世紀頃に、キリスト教に取り入れられるようになり、18世紀の大バウハの頃、芸術音楽として最盛期を迎えたというのがおおまかな歴史の流れ。こういった歴史を知ると、誕生した背景や変遷、パイプオルガンと教会の関係などに関してももっと知識を得たくなります。

そして、録音されたパイプオルガンの演奏も聞くことができました。演奏された国によってその雰囲気は全く異なるもので、スイスの現存する世界最古のパイプオルガンの音色は、包み込むような柔らかな音。ドイツのパイプオルガンは、これこそ宗教音楽というような荘厳な音色、イタリアも音が重ねられ重厚な響きで、対してフランスは、華やかな印象です。スペインやポルトガルは興味深いことに、メロディからすでに前述の国とは異なり軽やかなイメージでした。

今回の講演会により歴史や構造を知ったことで、現地の教会を訪れて、実際にパイプオルガンの演奏を聴きたいという願望が強くなりました。いつか音楽と教会巡りをしたいと思います



講師松崎譲二氏



演奏家の奥様

会社紹介

株式会社 マナ オルゲルバウ
代表取締役 松崎譲二
住所 195 - 0063 町田市野津田町1832-14
Tel&Fax (042) 735-7644
<http://www.manaorg.co.jp>
E-mail info@manaorg.co.jp

湘南日独協会

湘南オクトーバーフェスト 2019

今年もOktoberfestの季節がやってきました

【完全予約制】

美味しいドイツビールや音楽と軽食で

楽しい催しを計画しています

皆様、誘いあわせの上、ご参加下さい



日時: 10月26日(土) 午後2時30分開宴
(開場午後2時)

会場: 藤沢市民会館

第1展示集会ホール

会費: 6,000 円(税込み)

☆演奏 エーテルワイスト・トリオ

☆合唱 合唱団「アムゼル」

会場の皆さんで呑み歌いそして踊りましょう

(藤沢駅南口から徒歩 10 分)

主催: 湘南日独協会

後援: 江ノ電沿線新聞社

協賛: ドイツ観光局

問合せ(申込み): 湘南日独協会

Tel: 0466-26-3028

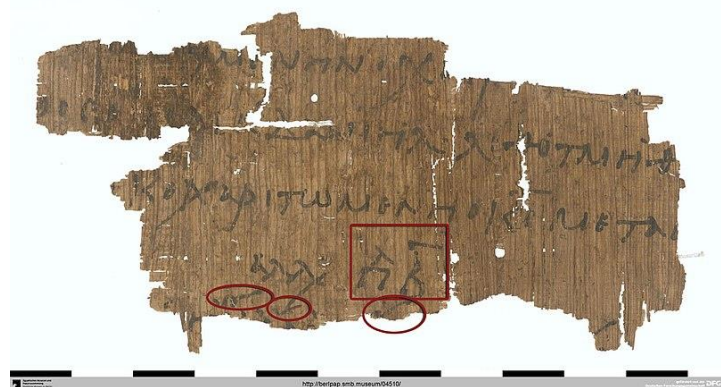
E-mail: jdgshonan.official@gmail.com



湘南オクトーバーフェストの申し込みの詳細は、
9月に改めてお知らせします。予定表へはすぐに
書き込んでください。

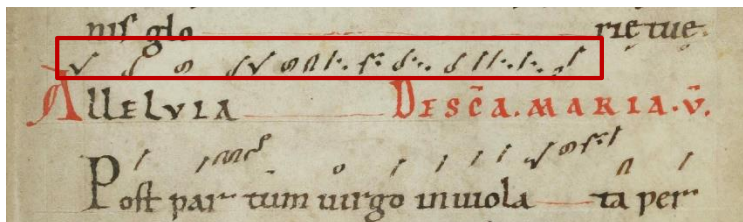
今回は、音楽の言葉となる譜面のお話です。最初の譜面はいつ頃作られたのか、ハッキリしていません。現存する最古の譜面は、エジプトのオクシリシコス(Oxyrhynchus)遺跡で19世紀末に、古代エジプト、プトレマイオス朝時代、紀元前3世紀頃のパピルスが大量に見つかり、その中に聖歌が残っています。また、6世紀頃の聖歌を、修道院でパピルスに書き写した写本の断片がエジプトで見つかっています。(下図)

このパピルスの断片の中には、赤い丸で囲んだ所に、旋律の抑揚を示す記号が使われていて、複数の人が音楽(歌)を共有して、一緒に演奏していたことがわかります。



Berlin, Staatliche Museen : P. 21319: Marianische „Troparia“

勿論、私たちが今よく見る譜面とはだいぶ違います。聖歌は、教会の初期から何世紀もの間、口伝により伝承されています。布教が進み、広く教会が建ち始めると、聖歌も普及させるために、このような写本を作るようになります。聖歌の旋律は、聖歌の言葉が持つ自然な抑揚(声調)に沿って組み立て、言葉が正しく伝わるようにしています。また、民謡のようによく歌われる旋律を基に、言葉の抑揚を当てはめている歌も多くあります。次の例で、赤で囲った記号群が旋律の抑揚を表しています。

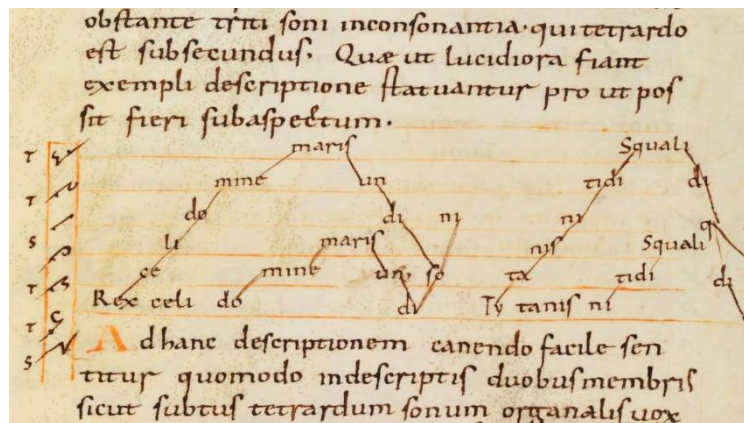


このような初期の譜面で使う記譜方法を「ネウマ記譜法」と呼びます。このネウマ(Neume)という言葉は、ギリシャ語の「合図」「身振り」「息」という意味の言葉に由来しています。初期の譜面は、礼拝の時、皆で聖歌を歌う時に、一緒に歌うために書かれた添え書きを起源にして、各地域で実に多くの方法が考案され、地域の伝統として体系を受け継ぎ、統廃合を経て発展します。



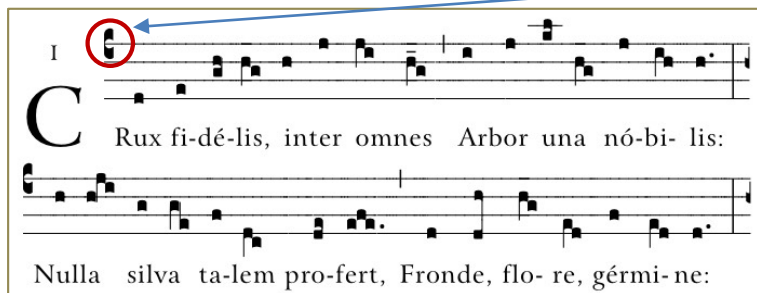
その後、東ローマ帝国配下のビザンチン文化の中で、教会で行われる礼拝を見直し、礼拝も聖歌も増え、旋律の抑揚を大まかに表す印では聖歌を区別出来なくなり、旋律を明らかに表す記譜法が使われるようになります。まだ、音の高さを表す五線は使われていませんが、この時代に、それまでの記譜法を集大成し、現在の記譜法の起源が生まれています。

音の高さを示す線が最初に使われる記譜法は、9世紀に出現します。860年頃のフランク王国 Caroling朝の頃に書かれた音楽の理論書(Musica Enchiridion)の中に、音の高さを表す線の間に歌詞を書き込む、ダジアン(Daseian)の記譜法が紹介されています。まだ、線の間だけで、線の上は使われていません。



音の高さは示されるようになりますが、まだ、音の長さを示していません。歌詞の言葉が話されるとき各母音の長さを、そのまま音の長さとして解釈します。歌によって、速く歌う旋律、ゆっくり歌う旋律という、今の速度記号にあたる記述があります。

11世紀になると、音の高さを示す線(譜線)を使ったNeume譜面が現れ、4本譜線を用いるようになります。この譜面には、高い声用と低い声用の譜面が区別され、現在のハ音記号、ヘ音記号の基となる記述が使われています。



このような現代記譜法の基になる記譜法は、中世イタリアのアレッツォ大聖堂で合唱の指導をしていた修道士で音楽教師のグイード・ダレッツォ(Guido d'Arezzo)が考案し、1025年頃、"アンティフォナリウム(Antiphonarium; 聖歌曲集)序説"という著書の中で、解説しています。グイードは、記譜法を


























9世紀 *podatus* : → 11世紀

整備しただけでなく、ドレミ(階名)の基となるUt-Re-Mi-Faなども考案し、音楽の教育に大きな影響を与えています。

譜線の本数は、その時代に活躍した歌手や楽器の音域の広さに沿って、本数が増えます。その後、17世紀になって五線が定着します。それまで、4本線が主流の時代に、印刷の都合で6本の線を引き、2本は単に間隔を確保するだけという譜面も残っています。また、9～11本の線が引かれている譜面もありますが、流石に見にくかったのでしょうか、多くの線を使っている例は僅かで、五線譜に集約していきます。

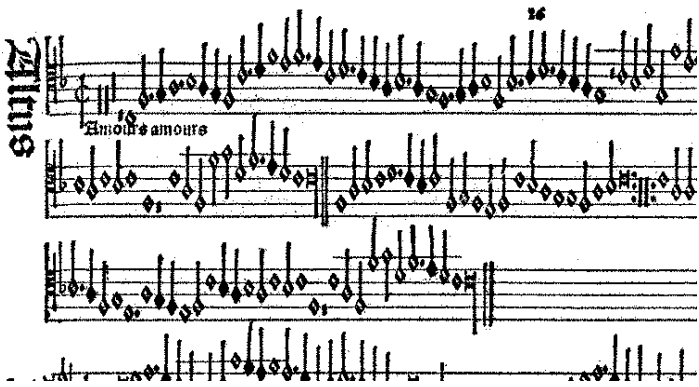
譜面の横方向＝時間の流れは、歌詞の言葉の長さで表していたのですが、14世紀頃から楽器だけで演奏する曲、器楽曲が増え、音の長さ(音価)を楽譜で表すようになります。定量記譜法(mensural notation)と呼び、時代によって使われる記号は変化します。

17世紀に、ほぼ現在、使っている記号になります。

Name	世紀			
	13th	14th	15th	17th
Maxima				
Longa				
Breve				
Semibreve				
Minim				
Semiminim				
Fusa				
Semifusa				

記譜法で使われる音価記号の種類数は、時代の音楽の表現や、演奏技術によって変化しています。

楽譜の発展に大きな影響を与えたのが、楽譜の商用印刷です。グーテンベルクが活版印刷を開発した20年後に、当時、音楽の中心地であったVeneziaで、ペトルッチ(Ottaviano Petrucci)が商用の楽譜印刷を始め、1501年にHarmonice Musices Odhecatonという歌集を出版しています。



Harmonice Musices Odhecaton
Josquin des Prez : Adieu mes amours

楽譜が印刷出来る前は、譜面は手で写し写本を作って、音楽を広めていました。譜面を写す専門職が居ました。楽譜の印刷が出来ようになった以降も、譜面は常に必要とされ、つい最近まで写譜職は健在でした。楽譜の印刷技術は、当時の音楽家に新しい収入の道を与え、その後の音楽の発展に大きく寄与しています。

ペトルッチの印刷譜面を見ると、十分に綺麗です。五線、歌詞、音符の順番で3回に分けて印刷しています。1520年頃の英国で、ラステル(John Rastell)が1回の印刷で済む廉価版印刷を始め、楽譜の印刷は広く普及します。例えば、宗教改革の影響で、前宗派の音楽が大量に廃棄されていた時代の英国の名作曲家、ウィリアム・バード(William Byrd)等の作品が現在まで残ることが出来たのは、印刷技術の恩恵を受け、大量の印刷楽譜がドイツ等大陸側に残っていたからです。

ペトルッチの印刷譜面を見ると、今の譜面と違うところが幾つかあります。まだ、小節線がありません。小節線(縦線)が最初に使われるのは、15世紀から16世紀の鍵盤楽器とvihuelaという楽器の曲から始まります。但し、一定の拍数を区切る線ではなく、音楽の区切り、拍の印のように使われます。現在のような小節線が拍子記号と共に一般的になるのは、17世紀中盤です。モンテベルディ(Claudio Monteverdi)の印刷譜面の中には、小節線が使われ始めている曲があります。

もう一つ、大きな差は、装飾音符です。ペトルッチの頃の印刷技術では、小さな音符を印刷することは出来ずに、記号で装飾音符を表しています。装飾音符が印刷出来るようになるのは、もう少し後、J.S.Bachの時代に、銅板や亜鉛板を使い、表面に彫刻(engraving)し印刷する凹版印刷技術からです。



この譜面は、BachのGoldberg 変奏曲集の冒頭で、単音の装飾音符が使われています。装飾音のトリルも、tr.ではなく、+、髭付きのギザギザなどの記号を使っています。

まだ、譜面の歴史の話は途中ですが、今回はここまでです。非常に長い歴史の中で、多くの人が音楽を伝える譜面を、その時々音楽からの要請に応えながら、知恵と工夫を凝らして、判りやすく使い易い記譜法を発展させてきました。現在の記譜法は、非常に高い精度を持った、音楽を表現する言葉となっています。是非一度、譜面を見て、譜面は音楽の目安でしかないことを実感してみてください。面白いですよ。

ブレーマーハーフェン 志賀トニオ氏

今ドイツでは、難民の増加が社会問題となり、そのテーマについて議論を交わす事が日常となりました。先日ドイツ人家族が我が家を訪れた時もその話題になり、私が難民を指す言葉として一般的に使われているFlüchtlinge（難民）という言葉を使用した際、その言葉には差別的なニュアンスを含んでいるから使用すべきではないとたしなめられました。代わりにImmigranten（移民）と表現すべきだと。それほど繊細な話題なのだと改めて感じた瞬間でした。Bremerhavenは駐留米軍が退去した後に人口が減少したため空き家が多く、特に多くの難民が政府からこの街に振り分けられているのではと感じます。

というわけで、今回はその移民問題と、劇場との関係がテーマです。まず直接的に影響を受けるのは選曲と演出です。毎シーズン必ずこの問題をテーマにした演目が上演され、演出家もそれを意識した演出をします。



ウエストサイドストーリーの場面

4年前のウエストサイドストーリーは現代のロメオとジュリエットと言われる曲で、縄張り争いでいがみ合う白人系（ジェット）とプエルトリコ系（シャーク）の物語です。恋に落ちてしまったジェットのトニーとシャークのマリアを巡る争いの後、まずはそれぞれのリーダーが決闘の後死亡し、最後にはトニーも銃弾に倒れる。その場面では葬送行進曲が奏でられ、通常はジェットとシャークのメンバー達が、あまりの惨さを目の当たりにし、このまま争いを続けるわけにはいかないと直して一緒にトニーの遺体を運んで幕を閉じる。しかし、この時の演出家はジェットのメンバーを早々に舞台から退去させ、あたかも争いがこれからも続いていく事を暗示させたのである。その時に私が感じたのは現実の重みと難しさである。作曲者バースタインがこの作品で表したかったのはきっと、若者達が3人の死をきっかけに改心し、手を取り合って生きていく事だったかもしれない。しかし現実には、改心できる人はきっと一部の人で、それ以外の人達は憎しみがさらに増して、結局争いは続いていってしまうのではないか。この演出を見て、なんでポジティブな終わり方にしてくれなかったんだろうと思う自分もいた。なぜ希望を持たせて終わらせてくれないんだと。でも現実はそのように簡単ではないという事を思わせてくれる演出でした。



その次の年に上演されたDer goldene Drache（金龍）は難民がドイツに押し寄せる直前の2014年に初演された現代を代表する作曲家Peter Eötvös（ペーター・エトヴェシュ）の作品であるが、昨今の世相を見事に表した傑作でした。ドイツに住む人なら誰でも一度はAsiambisというお店を見た事があるでしょう。

左は「金龍」の一場面

Chinaimbisと呼ばれる事もあるこの軽食屋はドイツ中であり、どの店に入っても似通った価格と質であるのが特徴です。安くてお腹いっぱいになれるので、私もRostockの学生時代に頻繁に食べに行きましたし、今でもBremerhavenでその都度利用しています。

物語は、その曲名であるDer goldene DracheというAsiambisに不法滞在でやってきた10代後半の中国人少女が主人公です。歯が虫歯になっても医者にかかれぬ為に、店員が歯を抜くことに。抜けた歯が落ちて入ってしまったスープを食べるお客のシュチュワーズ2人組。その裏で少女は出血多量で死亡し、店員達は夜中に橋から遺体を川に落としてしまう。その水の流れによって故郷の中国に流れ着くというお話し。実は隣の風俗店で生き別れになった姉が働いている場面もある等、かなり衝撃的な内容であった。

曲の内容の他にも移民問題が色々な局面で関係してきます。忘れてはならないのが私自身もドイツでは移民である事。それは就職先を選ぶ時に注意が必要になってきます。上述のRostockの音大に合格した時に、親類にネオナチに気を付けるように強く言われました。

それは当時、Rostockでネオナチがベトナム人を襲って殺害した事件がドイツ中で話題となっていたからです。実際にRostockで危険を感じる事はありませんでしたが、その後訪れた旧東ドイツの町では排他的な雰囲気を感じる事が少なからずありました。

Erfurtの劇場で2か月程仕事した時には、町でほとんど外国人を見かける事がなく、劇場に入ったとたんに、そこだけ国際的になり不思議な感覚になりました。

その他には、劇場では小学生から高校生までを対象にした、教育プログラムに力を入れています。子供達が授業の一環で劇場を訪れ文化に触れる機会がとても多くなっています。そこには当然難民の子供達も含まれますから、心を豊かにする教育こそが私達芸術に携わる者にできる難民支援なのではないでしょうか。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

「ブレーマーハーフェンへ行ってきました」

会員 大久保明

志賀トニオさんのご活躍されるブレーマーハーフェンへ行ってきました。古くからの友人、昔の職場仲間を訪ねる旅の中にトニオさんを訪ねる日程を組みました。当初6月12日と13日の2公演を観る予定でしたが、14日の指揮が加わり、3日間で昼公演も入れて4公演となりました。12日の「Mariechen von Nimwegen」ではオーケストラにピアノ演奏で、13日の昼の「Schulkonzert」ではチェレスタを演奏、夜の「Die Herzogin von Chicago」14日の「Sunset Boulevard」を指揮するという超多忙な3日間に当たり、滞在を1日延ばして楽しむことができました。これほどの過密なスケジュールは稀とのことでしたが私にとっては幸運でした。昼には4大劇場の地下から最上階まで案内をして頂き普段は見ることのできない、作業中の舞台などもみる事が出来ました。トニオさんは指揮者でもあります、オペラであればソリストの指導もするという立場にあり、その際には本番でオーケストラ演奏に当たる部分をピアノで演奏することも必要と聞き、楽譜は見るのではなく頭では演奏中の楽譜では無く其の先が見えている、と聞きました。楽譜を目で追いながら必死で歌っている自分がなんとみずばらしく覚えました。



さて、左はチケットです。側にEintrittskarte（入場券）次に=がありBusTicket（バス乗券）とあります。これはバスで場を促進する手段でもあり素晴らしいアイデアだと思います。

もう1点。下部にDienstplatz EURO, 00とあります。通常は料金が記載されています。今回私は指揮者の優待券を頂き一番良い席の一つで楽しむことが出来ました。皆さんも行ってみては如何でしょう。

寄稿（翻訳）Der Wind 別冊の配布について

湘南日独協会
会長 松野 義明

現在のドイツ語講座の構成は、入門クラス、初級クラス、中級クラスという階層構造となっており、その延長線上に原書講読クラスを設けた形になっております。その原書講読クラスでは、長年にわたり受講者数5名～6名程度で推移して参り、現在までに、Luise Rinser, Paul Heyse, Arthur Schnitzler, Thoman Mann, Hermann Hesse, Theodor Storm, Franz Kafkaなどドイツの純文学を中心に講読して参りました。その結果、講師と受講生からなる学習の場というより、むしろ、ドイツ文学と一緒に読んで楽しむ場、すなわち、読書会の場に変容して参りました。

このような状況を受け、湘南日独協会のドイツ語講座から原書講読クラスを切り離し、読書会という形で、弊協会の一つの事業といたしまして、更に門戸を広げ、皆様と一緒にドイツの文学を楽しもうということになりました。

従って、今までお手元にお送りしてまいりました寄稿（翻訳）Der Wind別冊をお送りするのも今回が最後ということになりますので、記念として、いつもより少し立派な製本でお届け致します。フランツ・カフカの「変身」という小説を受講生全員で翻訳したものです。どうかお楽しみください。

ドイツ文学を原語で楽しむ読書会について

湘南日独協会
会長 松野 義明

昔、旧制高校や大学でドイツ語を勉強したけれども、それ以来、ドイツ語とはずっと離れていて、今やっと時間ができたので、ドイツ文学を原語で読んでみたいと思ったことはありませんか。

定年退職後ドイツ語講座でドイツ語を勉強したので、昔から憧れていたドイツの文学を、腰を据えてじっくりと読んでみたいなどと思ったことはありませんか。

あるいは、仕事で家族ぐるみドイツに長らく住んでいたの、折角覚えた言葉を忘れないようにドイツ語に接していたいなどと考えていらっしゃる方はいらっしゃいませんか。

そんな方々のために、この10月から湘南日独協会は、その事業の一つとして、読書会 — ドイツ文学を原語で楽しむ会 — を開設したいと考えております。今のところ、月に一回ないし二回の頻度で、最初はヘルマン・ヘッセの「デミアン」（Hermann Hesse: Demian — Die Geschichte von Emil Sinclairs Jugend）を読むことを考えております。ドイツ文学を原語で読むことにご関心のある皆様は、ぜひ、ご参加下さい。ご一緒に楽しもうではありませんか。読書会の運営に当たっては、以下の項目をお約束いたします。

1. 複雑な文章に遭遇した場合は、文法的な曖昧さをあとまで残さないように、弊協会担当者が基本的文法に立ち戻って丁寧に説明させていただきます。
2. 途中参加も大歓迎です。途中参加の方には、その時点までの翻訳と解説を用意させていただきます。
3. 読書会の当日、ご都合がつかず、欠席なさった場合はその日に読み進んだ分の翻訳と解説を後日お送りします。ご興味をお持ちの皆さまは、気軽に、何時からでもお出かけ下さい。

参加費は一回につき1000円です。実施日、時間、場所、申し込み方法などにつきましては、ホーム・ページなどで改めて連絡させていただきます。

ドイツ語講座のご案内

2019年秋冬期（2019年10月～2020年3月）の募集が始まりました。詳細は同封の案内書と申込書をご参照下さい。不明な点やご相談がありましたら下記へご照会ください。

ドイツ語講座担当 中村 茂子
〒247-0063 鎌倉市梶原3-26-6 Tel/Fax0467-43-2683
E-Mail natalie@jcom.zaq.ne.jp

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

新入会員紹介

榎本かおり

敬称略

塩田真子

新役員の自己紹介

4月の総会で理事に就任されました、吉村邦広氏の自己紹介です。宜しくお願いいたします。



談話室Stammtisch（略：SAS）の運営を担当しています。日本やドイツの話題を取り上げてドイツ語と日本語でトークを楽しみます。今はドイツ人を含む8名参加。

軽水炉設計技術者としてドイツのエランゲンに出張時、仕事での交渉は英語、ゴルフのスコアは自分ではなく相手プレイヤーの打数を記録するのがドイツの慣習（第三者チェック）、木造の粗末なクラブハウス、自然林のコースを歩いて回る、ゴルフ場の木製の長いテーブルで子供たちと食事、フランケンワイン、ゆったりと流れる時間の余韻を味わったこと。無駄のない合理的なプロセスで文化や自然を大切にするというのが私のドイツ国民に対する一つのイメージになっています。

編集後記

- 令和元年を迎え湘南日独協会も新しい動きがあります。新しい役員の誕生、ドイツ語講座の新編成などにより地域社会に密着した、また会員の要望に対応した活動の展開が期待されます。皆さん声を是非協会へ届けて頂きたいと思います。
- 西鎌倉山自治会親寿会の活動支援が始まっています。勝亦副会長、伊藤理事が中心になって対応しています。今後の湘南日独協会の活動にも大きな意味を持つものとして注目されます。皆さんの中にご関心をお持ちの方がおられたらどうぞご連絡ください。
- 今年も「湘南オクトーバーフェスト」が近づきました。今回は土曜日になりますのでご注意ください。3ページに案内を掲載しておりますが申し込みの詳細は9月に改めてご案内の予定です。会員の皆様のご参加とまたお手伝いを是非お願い申し上げます。現在では横浜の赤レンガ倉庫でのオクトーバーフェストが有名ですが、それが始まった直後の2004年10月、合唱団「アムゼル」はミュンヘンから来た楽団に加わり舞台に立ちました。本場の楽団との共演は勿論楽しくソーセージにビールの味を思い出します。これが3年続きました。私は楽団の演奏の無い日には彼らを箱根などへ案内し野天風呂などを楽しんでもらったことを思い出します。
- 本文中に少々書きましたが、毎号「劇場便り」のご寄稿を頂いております。ブレーマーハーフェンの志賀トニオさんを訪ねてきました。ブレーメンから電車で約45分の人口12万ほどの港町です。街の中心部に劇場があり常に催し物があり、市民生活に重要な地位を占めていることが分かります。チケットは即バスの乗車券として使用可能です。車を使用することなく劇場へ行けることは、駐車場や道路の混雑緩和にもつながり何よりも高齢者にとっては嬉しい事ではないでしょうか。素晴らしいアイデアと感嘆を覚えました。（大久保）

湘南日独協会催事カレンダー（４月～１２月） ７月14日現在の情報です

月	日・時	催 事
4 月	2 8 日（日）	実施済 年次総会 名画鑑賞会 「バルトの楽園」 2006年の日本映画
5 月	1 0 日（金）	実施済 談話室 S A S
	2 6 日（日）	実施済 講演会 演題：「パイプオルガン その歴史と構造」 講師：松崎譲二氏
6 月	7 日（金）	実施済 談話室 S A S
	3 0 日（日）	実施済 講演会 演題：「高等技術教育の独仏比較」 講師：吉森 賢氏
7 月	3 日（水）	実施済 レクチャーコンサート 講師：志賀トニオ氏
	9 日（火）	実施済 談話室 S A S
	2 8 日（日）	14:30 ～16:00 講演会 演題：「カフカの『変身』について」 講師：寺田雄介氏 概要：カフカの作品の中で最も知られている作品『変身』が世に出されてから、早くも100年が経ちました。この作品は、メディア・テクノロジーが普及し、人間社会のあり方が急速に変化した20世紀初頭に誕生しましたが、私たちの生きる現代社会にも通じる様々な問題が描かれています。その一端を、皆様と一緒に考えて見たいと思います。 ドイツ留学経験、当世学生気質なども交え、お話頂きます。 講師は、慶應大学文学部卒業、専門は20世紀ドイツ文学、慶應大、ICU等各大学で講師をされた後、現在は獨協医科大学専任講師として活躍されています。 当協会会員です。 会場：湘南アカデミア 7F 会費：1,000円 懇親会 会場：「宗平」（予定）、会費 4,500円（見込み）
		午後 ふじさわ合唱祭 湘南日独協会混声合唱団アムゼルが出演します。 会場：藤沢市民会館 入場料：無料
8 月		当月の催事はありません。
9 月	1 0 日（火）	15:00 ～17:00 談話室 S A S 会場：ミナパーク 5 階ミーティングルーム 2 会費：1,000円
	2 9 日（日）	14:30 ～16:00 講演会 演題：「英国のEU離脱（Brexit）と日本」 講師：渡邊頼純氏 概要：一昨年1月の国民投票以来、英国のEU離脱は英国自身のみならず、EU全体にとり、また、同国に進出している多数の日本企業にとっても大問題です。同国メイ首相はつい最近保守党党首を辞任し、首相退任も確実です。英国は、EUはどうなるのでしょうか、日本への影響は。このホットなテーマを分かり易く解説して頂きます。 講師の先生は、慶応大学教授を経て、現在、関西国際大学国際コミュニケーション学部長です。同氏は、日本経団連Brexit 研究会メンバーでもあります。 会場：湘南アカデミア 7F 会費：1,000円 懇親会 「宗平」（予定） 会費 4,500円
10 月	8 日（火）	15:00 ～17:00 談話室 S A S 会場：ミナパーク 5 階ミーティングルーム 2 会費：1,000円
	2 6 日（土）	14:30 ～17:00 湘南オクトーバーフェスト（今年は土曜日開催です。ご注意ください） 会場：藤沢市民会館 第1展示集会ホール 14：30開宴 会費6000円 参加申込は同封の振込用紙で入金願います（先着順です）
11 月	8 日（金）	15:00 ～17:00 談話室 S A S 会場：ミナパーク 5 階ミーティングルーム 2 会費：1,000円
	2 4 日（日）	15:00 ～16:30 講演会 演題：「欧米における日本のイメージ」 講師：Prof. Dr. ブッヘンベルガー 概要：ミュンヘン大学で日本語と日本文学の勉強を始めた当時、まだ日本のことを全く知らず、講師は様々なソースから日本についてイメージを作り上げました。しかし、1990年に初めて来日した時、現実の日本はイメージと異なり、驚かされたようです。2000年に日本に移り住み、以降滞日ほぼ20年、日本のイメージが全く変わった一方、欧米の社会はまだ昔の儘、その欧米における日本のイメージについて語って頂きます。 講師は現在神奈川大学の教授です。 茶話会：会場にてコーヒー程度 会費：100円 どなたにも気楽に参加頂けます 懇親会：「庄や 藤沢南口店」（予定） 会費：4,000円
12 月		談話室 S A S 今月はありません。
	1 5 日（日）	望年会（詳細は次号以降にてお知らせします）

（注）S W Z は当分の間、休会します。